

しんりんかんだより

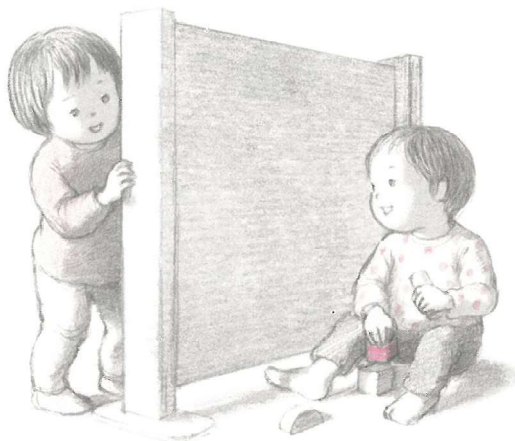
年主題

「ともにつむぎだす」～希望の中で～

月主題 3F/2F なんだろう/みつける

‘23 第3号 (vol. 75)

2023年6月1日発行



「みつける」

入園当初は、目にするもの何もかもが珍しく、手洗い場の排水溝のフタをカタカタしたり、蛇口に触れてみたり、部屋中を探索していたひよこ組（1歳児）のk君、今は、お友だちに興味が出てきて「なにしてるの～楽しそう～」とこぼと組（2歳児）さんが遊んでいる中に入っていくことが多くなっています。そんなある日、先に広場に行っていたこぼと組を追いかけて、ひよこさんが広場に到着すると、建物のスロープで、こぼとさんが電車ごっこをしていました。キラッと目を輝かせて近づくkちゃん。いつもは、「やだ!」「こないで!」と自分たちの遊びを守ろうとする、こぼと組たちですが、その日は、「kちゃん来たの～」保「入れてくれる?」「いいよ～」と笑顔でした。受け入れて貰えたことで、k君も笑顔になり、その場の楽しさを共有していました。

「恐竜ないから保育園行きたくない!!」と乳児から借りていた恐竜のフィギアを返してから、ずっと怒っていたE君。「じゃあ自分で作ってみたら・・・」「えーっできないよ!そんなの」と言っていました。が牛乳パックを出して「これでできるかな～」と提案すると、「ここをつなげたらいいんじゃない・・・」と組み合わせて恐竜の頭と首を作りました。また新聞紙をまるめて骨組みを作り、ガムテープで固めて色を塗り、ティラノサウルスもできました。年長さんもそれを見て「俺も作りたい!!」と取り組み始め、「俺はスピノサウルスだーっ!」「俺はスピノの赤ちゃん～」と自分の好きな恐竜づくりに没頭していました。そしてダンボールの大地に火山、オレンジの布で溶岩の流れる様子を表現して、「ガオー」「ガオガオー」ジュラシックワールドで、恐竜たちが遊んでいました。

ひとりでは出来ない事も、縦割りの関わり合いの中では広がっていきます。4・5歳のお兄さんたちの恐竜を見て、凄い!!やってみたい!!と憧れの眼差しで見ていた虹組さん（3歳児）もその姿をまねっこしたり、自分で見つけた遊びを繰り返しながら、遊びの世界を広げています。

コロナ禍が明け、小学校の運動会を見に行ってきました。すると次の週は「遊びに来たよ～」と沢山の卒園生が保育園を訪れてくれました。「やったーMちゃんだー」「会いたかったー」と抱き合って喜ぶ子どもたち。3年間我慢してきた人との触れ合いがやっと戻ってきました。

親隣館保育園は、第二の我が家!その本領を発揮できる日常が戻ってきました。「クジラのところで卒園児キャンプしない?」「運動会やりたーい!」と中学生になった卒園生が提案してくれました。いろいろな案を出し合い、また地域活動を盛り上げていきたいと思えます。

(主任 鹿糠 正美)